

12. 海洋で働く人々

海洋に関する仕事は、「海を守る仕事」から「マリレジャー」まで広範囲にわたります。ここでは、代表的な海洋の仕事を紹介していきます。

海を守る

海上保安官

国民が安心して海を利用し、様々な恩恵を享受できるよう、海上における犯罪の取締り、領海警備、海難救助、環境保全、災害対応、海洋調査、船舶の航行安全等の活動に日夜従事しています。



海上自衛官

日本の海や国民を、他国の侵略から守るのが主な仕事です。日本や海外で災害が起きたときには、艦艇や航空機などで、捜索・救助、救援物資の輸送などを行います。



出典：海上自衛隊ホームページ

海運

フェリーボート船長・航海士

気象や海の状態を見て船の針路を定めたり、操縦の指揮をとります。



水産

漁業者

我が国の周辺水域は、世界的にも魚種の多様性が極めて高い水域であり、古くから様々な漁業が営まれ、数多くの漁業者が従事しています。



水産加工業で働く人々

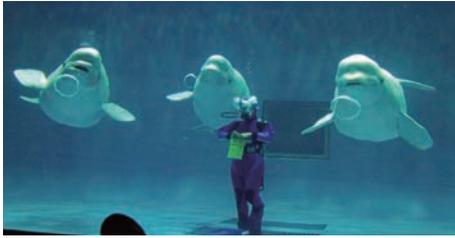
水産物の保存性を高めるほか、加工による付加価値の向上や、調理する手間を軽減する目的で様々な製品を製造します。



マリニレジャー

水族館の飼育員

動物たちの個性を把握しながら、ショーの間には、訓練に励んでいます。展示・飼育・教育・普及の仕事もあります。



写真：公益財団法人 しまね海洋館

海洋教育

水産高校、海洋大学などの教員

海についての専門的な知識や技術を教えています。練習船での航海実習を担当する教員もいます。



写真：国立広島商船高等専門学校

海洋研究

深海調査のようす

海洋生物、海洋資源、海洋地質、海洋物理、海洋化学、気象、海洋技術開発など研究対象は科学技術の全分野にわたっているほか、環境保全、海の法律、経済・政治、地理、海洋文化などの海の研究もあります。



©JAMSTEC



©JAMSTEC

海洋で活躍している方々から皆さんへのメッセージ

葛西臨海水族園教育普及係
天野 未知さん

水族館では海にくらす多様な生物を飼育し、展示しています。きれいな生物、珍しい生物だけではなく、海を切り取ってきたような展示、その生物がくらす環境そのものを見せることが使命のひとつです。また、地元の家、サンゴ礁、大型褐藻の繁る海、南極・北極まで行き、世界の水族館や研究者と連携して、採集や調査を行っています。一方、環境教育や保全への取組みも水族館の重要な役割です。葛西臨海水族園など、いくつかの水族館には教育を専任する係があり、当園は約20人ものスタッフが多岐にわたる教育活動を行っています。多様な海の生物を見られる水族館は海への窓口です。生物の展示をとおして一人でも多くの人に海や海の生物のおもしろさや暮らしを伝え、人と海をつなぐことを目標としています。

外航運航会社船長
大森 彰さん

日本の総貿易量の99.6%が海運によっています。液化天然ガス、原油、鉄鉱石、石炭などの資源、自動車や工業製品、その他の多くの生活必需品は船で運ばれています。もし、これらを輸送する船がなくなれば日本経済は破綻します。このように海運には、大きな需要があるにもかかわらず、外航海運に従事する日本人船員の数は2,300名程度しかいません。一方で、海運を支えるには、船を動かすだけではなく、その海技ノウハウを活かして陸上でも活躍できる人材も必要です。多くの船舶職員は、海上での仕事のみならず、陸上部署でも、船舶管理や配船業務といった仕事をしています。また、海外勤務の機会も多く、世界につながる海というネットワークを通じて、グローバルに活躍できる仕事です。

国立研究開発法人海洋研究開発機構
(JAMSTEC) 川上 創さん

私たち人間が化石燃料を燃やすことで、二酸化炭素が大気中に増え、地球全体が少しずつ暖かくなってきているのが地球温暖化です。また二酸化炭素は、溶けることによって海に吸収されています。溶けた二酸化炭素を、海中の微小な植物、植物プランクトンが光合成により有機物という粒子に変えてくれます。そして、その粒子「マリンスノー」が深海へと沈むことで、大気中に増える二酸化炭素を減らしてくれる働きを、海が担っています。我々は、空気中の二酸化炭素を減らしてくれる「マリンスノー」を「セジメントトラップ」という装置を使って捉え、長年観測しています。これらの研究を通して、未来の地球を予測するのに貢献しています。ほかにもJAMSTECでは、研究船や潜水調査船、無人探査機などのさまざまな調査機器を使って、広い海を調べ、その結果をもとに海や地球の謎を解明するために、全世界的な研究を進めています。



北極での採集のようす



省エネ自動車運搬船



海洋地球研究船「みらい」